

ミステリ読書案内

2024. 8. 10 発行元

第596号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

1989年のミステリ

新しい企画として「1988年のミステリ」からスタートして、今回はその二回目。平成最初の年である「1989年のミステリ」を取り上げる。この年もまた収穫の多い一年で、名作が目白押しの状態である。

「平成」最初の年・新時代へ

正月が過ぎると「昭和」が「平成」になった。私は仕事の面で忙しく、本はほとんど読めない時期に来ていた。でも、右の『ベスト表』を見ると私の好きな本がずらりと並んでいる。本当に新時代の幕開けを飾る年だったなあと感慨深い。

下に取り上げたのは『空飛ぶ馬』と『男たちは北へ』の二冊だが、原 奈にしても、島田 荘司にしても、佐々木 譲、岡嶋 二人、山口 雅也…と続いている。どれもが歴史に残る名

品揃い。ベスト10以下に大沢在昌『氷の森』、東野圭吾『鳥人計画』、有栖川有栖『孤島パズル』『月光ゲーム』と並んでいるのを見ると驚愕する。別の年ならベスト3に入りそうな作品がぞっくり。いい時代だったなと思う。

この年の江戸川乱歩賞、横溝 正史賞、サントリー・ミステリー大賞に特筆すべき作品はない。ただ、日本推理サスペンス大賞を宮部みゆきの『魔術はささやく』が受賞している。そして最終候補に高村 薫の『リヴィエラを撃て』が入っている。

1988年「このミス」ベスト20

- | | |
|--------------|--------|
| 1. 私が殺した少女 | 原 奈 |
| 2. 空飛ぶ馬 | 北村 薫 |
| 3. 奇想、天を動かす | 島田 荘司 |
| 4. エトロフ発緊急電 | 佐々木 譲 |
| 5. クラインの壺 | 岡嶋 二人 |
| 6. 男たちは北へ | 風間 一輝 |
| 7. 深夜ふたたび | 志水 辰夫 |
| 8. 生ける屍の死 | 山口 雅也 |
| 9. 影武者徳川家康 | 隆慶 一郎 |
| 10. 倒錯のロンド | 折原 一 |
| 11. 十字路に立つ女 | 逢坂 剛 |
| 11. びいどろの筆 | 泡坂 妻夫 |
| 11. 竜の樞 | 高橋 克彦 |
| 14. 氷の森 | 大沢 在昌 |
| 15. 鳥人計画 | 東野 圭吾 |
| 15. 孤島パズル | 有栖川 有栖 |
| 17. 月光ゲーム | 有栖川 有栖 |
| 18. 8の殺人 | 我孫子 武丸 |
| 19. パンドラ・ケース | 高橋 克彦 |
| 19. 密約幻書 | 多島 斗志之 |

北村 薫「空飛ぶ馬」

1989年ベスト2作品。東京創元社が企画した『鮎川哲也と十三の謎シリーズ』の一卷。このシリーズは当時活躍中の作家の作品が十二冊で、最後の十三冊めに新人作家の作品を登用するという計画でスタートした。その十三冊目に選ばれたのが本書・北村 薫の『空飛ぶ馬』である。現在は鮎川哲也賞と名前を変えているが、原点になった作品と言えるだろう。そして、この作品が中心になって「日常の謎」という形式が広まり、殺人などの犯罪事件が登場しないミステリが存在をアピールするようになった記念すべき一作。『円紫師匠シリーズ』の第一作にもなっている。

今本書を開いて読み始めても「北村 薫らしいなあ」と思わせる表現が随所に。それがとても懐かしい。巻頭話の『織部の霊』は主人公の女子大生（私）と落語家の春桜亭 円紫の出会いから。間を繋いでくれたのは大学で近世文学を担当している加茂先生。卒業生である円紫が大学の落研の寄席に来た折りに座談会が開かれることになった。その場で加茂先生の子どもの頃の思い出で古田織部が嫌いになった話が出てくる。「なぜ嫌いになったのか」を後日解き明かしてくれる円紫。こうして（私）と円紫師匠の推理物語が展開していく。全部で五編収録されている。記憶に残る作品は第四話『赤頭巾』と最終話『空飛ぶ馬』。

風間 一輝「男たちは北へ」

1989年ベスト6作品。新潮ミステリー倶楽部から出た本。作者の風間 一輝は長年『ミステリマガジン』などのイラストを手掛けていた桜井一のペンネーム。その特徴的な絵が懐かしい。本書が小説家としてのデビュー作。自転車でひたすら道を進む男をハードボイルドの筆致で描いた作品。舞台は国道4号線。これは私の日常と重なっている。私が住んでいる市についてはまったくの素通りだが、古川、高清水、築館、金成と続く長い長い上り坂の描写はよくわかる。自動車では何の苦労もないが、自転車ではさぞかし…と思う。県境をこえると次は中尊寺になってしまう。

主人公は中年のグラフィックデザイナーの桐沢 風太郎。東京から青森までの自転車ツーリングを計画する。東京・清瀬市の自宅を出発して埼玉県へ。小型トラックが追い越していく時、段ボール箱を落としていった。中を見てみると文字や記号が片面にだけ印刷された冊子が入っていた。旅行の記録を残すメモによいかなと考え一冊だけポケットに入れ、段ボール箱は近くのコンビニの郵便ポストの上に置かせてもらうことに話を付けた。実はその冊子は自衛隊の極秘文書「北部方面緊急事態対処作戦」。自衛隊はただちに桐沢を追いかける隠密行動を計画。尾形 三佐がその任務に就く。追う者と追いかける者、両者の行方は果たして…。